

1. 授業の概要(ねらい)

近年、国内のみならず訪日外国人観光客にとって、日本の歴史文化に関わるあらゆる資源は、重要な観光要素となっていることは言うまでもありません。そして、さまざまな博物館・資料館等が、観光に関するガイドンス施設、情報収集及び発信施設、体験施設等として、注目され、実際に活用されています。しかし、博物館・資料館等には資料を収集し、保管・管理し、研究するという本来の目的があります。現実には、人員及び人材の不足が主な原因となっており、観光に対して十分に対応するに至っていない施設が大半です。

本講義では、博物館・資料館等の文化関連施設について、上記の現状を踏まえ、実際に現地を見学し、グループワークを通して、観光への活用方策について新たな提案ができることを目指します。

2. 授業の到達目標

本講義の到達目標は主に以下の4点です。

- ・観光情報を収集・発信する施設としての博物館・資料館を理解し、説明できる。
- ・博物館・資料館等の本来の役割について理解し、説明できる。
- ・地域の歴史文化資源の観光活用について理解し、説明できる。
- ・博物館・資料館等について、観光への活用方策を提案・説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

グループワーク、実習(前後学習を含む)が主体のため出席は必須です。成績は以下の4点によって評価します。

- ・グループワーク及び現地実習への参加と発表(平常点含む) 35%
- ・講義内ワークシート及び課題レポート内容 35%
- ・期末テスト 30%

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは特に指定しませんが、講義内容に興味を持った場合、以下の書物が参考になるでしょう。

参考文献

- 小林 克 2009.『新博物館学—これからの博物館経営』 同成社
 佐々木正峰 2009.『博物館これから』 雄山閣
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 2012.『新時代の博物館学』 芙蓉書房出版
 中村浩・青木 豊 2016.『観光資源としての博物館』 芙蓉書房出版

5. 準備学修の内容

本講義では博物館や資料館等の施設を扱います。講義で取り扱った場所を中心として、実際に訪れてみることで、内容理解が深まるだけでなく、レポート作成などにも役立ちます。また、ガイドブックや旅行番組なども普段から見るようにして、施設の「活用方法」を考える訓練をすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

本講義では現地実習(土曜もしくは日曜)を1回行う予定です。現地実習には必ず参加することとし、最大2,000円程度の費用(交通費及び入館料)がかかります。この点を考慮してください。

また、本講義は現地実習を伴うため、少人数制での開講とし、受講者の上限を25名とします。受講希望者は、必ず初回講義に出席してください(希望者が多い場合は、抽選により決定します)。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 博物館・資料館等の基礎知識①(主に博物館法について)
- 【第3回】 博物館・資料館等の基礎知識②(博物館・資料館等の歴史)
- 【第4回】 地域資源と博物館・資料館
- 【第5回】 体験と博物館・資料館
- 【第6回】 人材育成と博物館・資料館
- 【第7回】 第2～6回まとめ ※グループワーク・レポート課題提示
- 【第8回】 博物館・資料館等の観光活用事例①
- 【第9回】 博物館・資料館等の観光活用事例② ※現地実習場所決定
- 【第10回】 現地実習への準備① ※グループワーク
- 【第11回】 現地実習への準備② ※グループワーク
- 【第12回】 現地実習(振替)
- 【第13回】 現地実習のまとめ ※グループワーク
- 【第14回】 現地実習の発表
- 【第15回】 まとめと【期末テスト】
 ※講義の受講者数や進行状況によって、計画が変更されることがあります。また、必要に応じてゲストスピーカーを招聘する場合があります。